

第5回羽島市幼保小連携推進協議会

日 時	令和6年7月2日（火） 15時00分～16時30分
場 所	羽島市役所本庁舎 3階 302会議室
出席者	<p>【委員】 西川委員長、安藤(理)副委員長、高砂委員、安藤(賢)委員、吉田委員、木下委員</p> <p>【事務局】 (教育委員会) 森教育長、不破事務局長、高橋学校教育課長、久保村同課幼児教育係長、中村同課指導係長</p> <p>(健幸福祉部) 熊崎子育て・健幸担当部長、高田同課長、小森同課長補佐</p>
内 容	<p>1 開会 2 議事 議事(1) モデル小学校区の取組みについて 堀津小学校と堀津保育園の代表者が中間発表をした後、意見交流</p> <p>【委員】 ・主体的で深い学びになっており、上級生にとってもよい影響があるのではないのか。 ・今までにない学習をカリキュラムに入れることで、指導要領の中身や進度に影響はないのか。</p> <p>【堀津小学校教諭より】 ・低学年においては、年度初めに子供たちに無理をして学校生活に慣れさせるのではなく、少しゆとりをもったカリキュラムを組んでも問題ない。 ・保育園と小学校の生活は別物だと思っている先生は多い。実践を進めながら互いに理解するようになった。 ・入学後、1週目や2週目の学習計画を立てているうちに、今年度のカリキュラムの方が自然な流れだと考えるようになった。</p> <p>【委員】 ・小学校に入学するまでに「なんとかこれだけは」と思って保育してきたが、小学校と交流する中で、小学校が作成しているカリキュラムをみて、もう少し保育園は力を抜いて保育してよいのではないかと保育士間で話している。</p> <p>【委員】 ・保護者として、就学までに「ここまでできていないといけない」と考えがちだが、焦らなくてもいいのだとわかった。特に第1子の保護者は焦ってしまうと思うので、保護者に幼児教育について周知することが大切である。</p> <p>【委員】 ・「1年生が母子分離ができず、学校生活に馴染めなくて困っている」という話</p>

を複数の小学校から聞く。堀津小学校では、幼児期につけた力を活かせるように環境を整えたり支援の仕方を変えたりして、緩やかに接続していくことで、子どもたちが負担なく学校生活を歩んでいる。

- ・小規模校だから可能なわけではない。これまでの感覚や考え方を変えていくことが必要である。
- ・小学校生活の中で、姿勢保持ができないことは課題だと感じている。

【委員】

- ・第6回の発表では、保護者に対して具体的にどうやって伝えていくか示してあげるとよい。
- ・大事なのは、年長と小1だけではなく、幼保小中の連続性を意識し、目の前の子どもを育てているすべての先生が関わってあげるとよい。

【委員】

- ・姿勢保持の弱さについては、外遊びや遊具の質、育ちの中でハイハイをどれくらいしたかまでさかのぼって考えていく。できていないことへのアプローチを一緒に考えてあげるとよい。

議題(2) 答申（案）について事務局より説明した後、意見交流

【委員】

- ・各小学校区の運営協議会のメンバーが、運営協議会の場で、地域の方等に向けて、これらの取組みを周知していくことが大切である。

【委員】

- ・幼児教育は結果だけを求めるものではなくて、そのプロセスの中で考えたり、悩んだりという力を発揮するということが本質である。
- ・「幼児教育で大事なのはこういうことだ」ということを小学校だけでなく、保護者や地域にも発信していくことはとても大事である。

【委員】

- ・園が地域の方や保護者に幼児教育のよさを啓発していく必要がある。

議題(3) 幼保小接続期プラン（案）、幼児教育推進プラン（案）について
事務局より説明した後、意見交流

【委員】

- ・幼児教育の「教育」という言葉が強く感じる。やらなければならないことがあるというイメージをもたれそうである。

【委員】

- ・保護者の方もそう思うかもしれない。幼児教育というのは遊びの中で自分の姿を発揮していくというものと考えている。

【委員】

- ・「教育」という言葉は強いかもしれないが、実際リーフレットの写真を見たときに、イメージはよくなるかもしれない。

【委員】

- ・幼児教育という言葉だけでは強く捉える人もいると思うが、10の姿の説明があれば、それが幼児教育だと浸透していけるだろう。

【委員】

- ・幼児教育は、遊びこそが学びであるため、遊びを通して学ぶことを大事にしたい。

【委員】

- ・リーフレットの裏か表のどちらを先に目にするかで、幼児教育という言葉の印象も変わってくると思うが、どのように折るのか。

【事務局】

- ・幼児教育プランを先に見てもらえるようにレイアウトや折り方を工夫したい。
- ・園や小学校にはPDFでの配布も考えている。

【委員】

- ・対象が誰になるリーフレットか。教員向けならこれでよいが、保護者向けだと文字が多い。見たくなるようにシンプルなものとよい。
- ・配布の時期はいつごろになるのか教えてほしい。

【事務局】

- ・基本は保護者と教員。加えてさらに裾野を広げていくつもりである。

【事務局】

- ・1月末の第6回の協議会後に配布を考えている。

【委員】

- ・リーフレットを見ただけでは理解するのは難しい。小学校説明会などで配布し、保護者の前で説明し、そこで質問を受けるというのもよいのではないか。

【委員長】

- ・教員向け、保護者向けに活用していく具体的な例を次の協議会で検討できるとよい。
- ・具体的な取組みが進んできたので、それをもとに市民の方に幼保小の連携を説明していけるとよい。よい取組みなので、そのあたりを考えてリーフレット作成ができるとよい。

3 閉会